

平成24年2月28日  
総合評価方式の活用・改善等による  
品質確保に関する懇談会

資料1 - 1

# 総合評価落札方式改善の論点

---

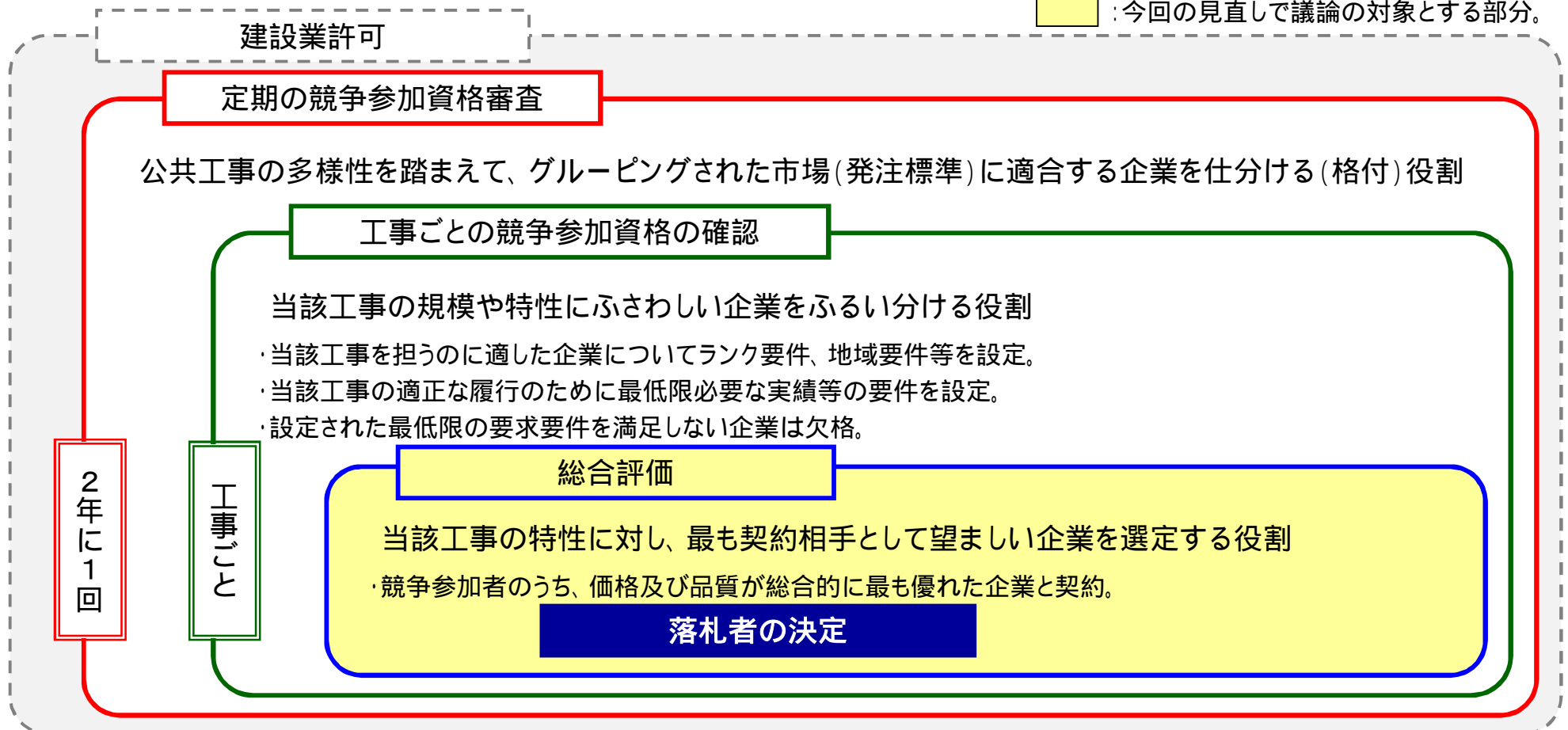
# 1. 論点

1. 総合評価落札方式改善の基本方針
2. 総合評価落札方式適用の見直し
  - ・総合評価落札方式のタイプ
  - ・対象工事
  - ・提案内容
  - ・評価方法
3. ヒアリング
  - ・適用対象工事
  - ・評価方法
4. 競争参加資格要件と総合評価評価項目
5. 高度技術提案型の課題
  - ・適用件数の拡大
  - ・より技術力を重視した評価方法等
  - ・予定価格及び低入札価格調査基準価格の設定方法等
6. 段階選抜方式

## 2. 企業評価の体系と検討対象

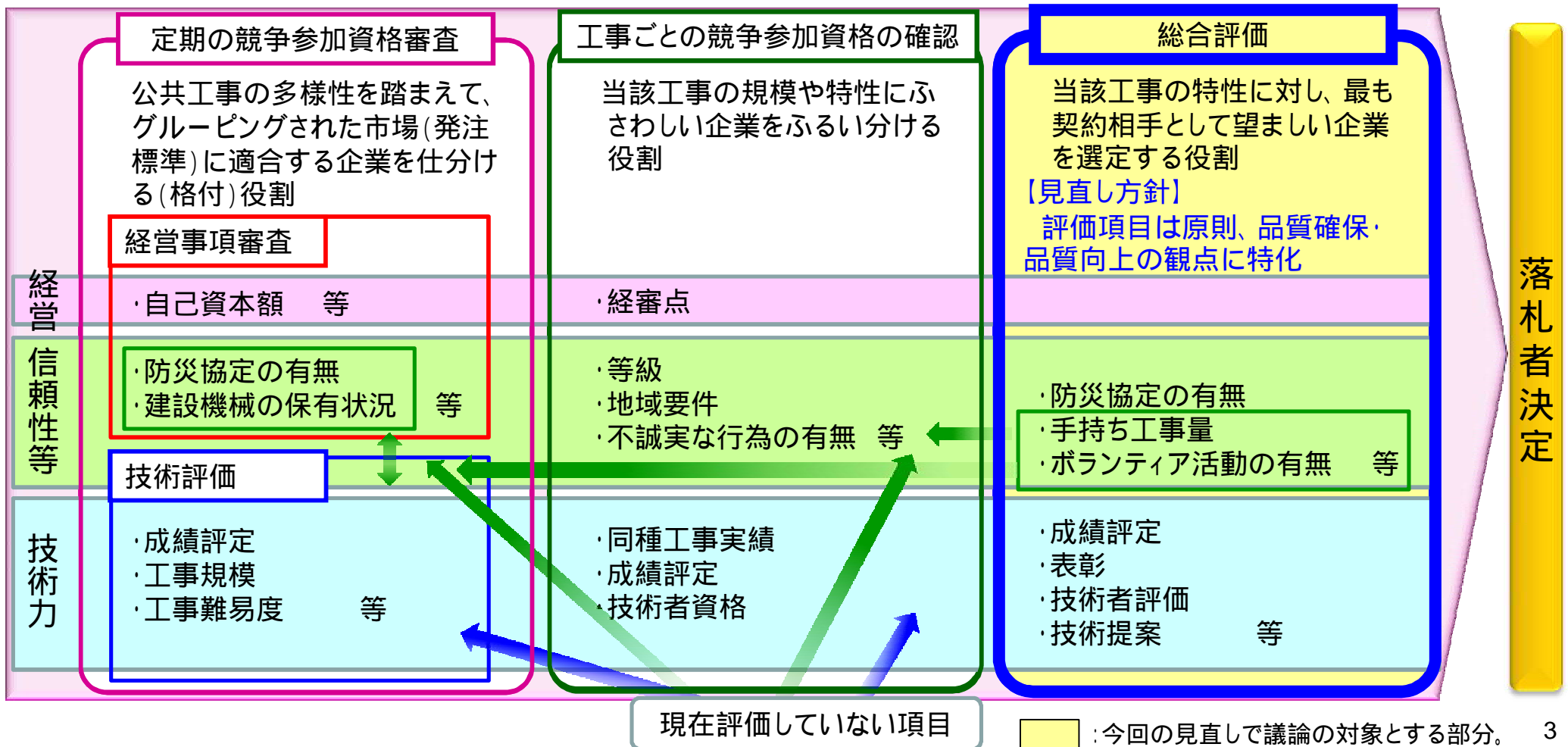
- ・企業評価は、2年に1度の競争参加資格審査、工事ごとの競争参加資格の確認及び総合評価の大きく3つのプロセスからなり、各プロセスの適切な役割分担の下、技術力と経営力に優れた企業を契約の相手方として選定することが重要
- ・今回の見直しでは、「総合評価」について議論し、競争参加資格審査、工事ごとの競争参加資格については引き続き検討

: 今回の見直しで議論の対象とする部分。



### 3. 企業評価の体系と役割分担

- ・企業評価は、2年に1度の競争参加資格審査、工事ごとの競争参加資格の確認及び総合評価の大きく3つのプロセスからなり、各プロセスの適切な役割分担の下、技術力と経営力に優れた企業を契約の相手方として選定することが重要
- ・今回の見直しでは、「総合評価」について議論し、競争参加資格審査、工事ごとの競争参加資格については引き続き検討



落札者決定

## 4. 入札契約方式と検討対象

- ・国土交通省直轄工事における入札契約方式については、原則、一般競争入札( )・総合評価落札方式とする。
- ・今回の見直しの対象は、一般競争入札・総合評価落札方式とする。

一般競争入札とは、会計法上の一般競争入札のみならず、広く参加者を募った上で、実績等により、参加者を絞り込む「段階選抜方式」も含む

入札契約方式とは、発注方式、競争参加方式、落札者決定方式の組み合わせである。

: 今回の見直しで議論の対象とする部分。



# 5. 総合評価落札方式のタイプ別の課題

総合評価落札方式のタイプ	課題
高度技術提案型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度技術提案型については、結果として最も優れた技術提案を採用できるように、技術評価点の最も高い技術提案に基づき予定価格を算定し、また調査基準価格を設定している。</li> <li>・入札参加者は各々の提案に基づき入札してくるため、入札価格がばらつき、このことが落札率が低いことの一因となっている可能性がある。</li> <li>・民間の高い技術力を有効に活用するという観点から、予定価格の設定方法を含め、技術提案・評価のあり方について検証が必要である。</li> <li>・適用件数が少なく、高度技術提案型の活用に向けた検討が必要である。</li> </ul>
標準型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WTO対象工事では、技術評価点の最高得点者による落札率が高い一方、落札率と調査基準価格率との差が小さくなってきており、技術評価点の最高得点者が、調査基準価格に近い価格で落札している状況にある。</li> <li>・WTO対象工事では、技術評価点の1位同点者数が増加しているとともに、技術評価点1位と2位の得点差が縮小しており、技術評価点での差がつきにくくなっていることから、技術提案・評価のあり方について検証が必要である。</li> <li>・WTO対象工事では、工事件数の減少に伴い、入札参加者数が急増しているものと思われる。</li> <li>・段階選抜方式の導入等、手続きの簡素化や技術提案・評価のあり方を見直す必要がある。</li> </ul>
簡易型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易な施工計画について、満点者数、有効入札参加者に占める満点者の割合とも増加し、また、得点率が80～100%と高く、入札参加者の技術力の選別の観点からは、必ずしも有効に機能していないものと思われる。</li> <li>・簡易型総合評価落札方式については、発注件数が多く、技術提案に係る受発注者の手間は小さくない。</li> <li>・「簡易な施工計画」の役割を検証し、これに代わるより効率的・効果的な方法を検討する必要がある。</li> </ul>

# 6. 総合評価落札方式のタイプ別の課題及び検討方針 (案) 国土交通省

H23.9.26  
第5回懇談会資料

## 簡易型

- ・入札参加者の技術力の選別の観点からは、「簡易な施工計画」は必ずしも有効に機能していないものと思われる。
- ・「簡易な施工計画」の役割を検証し、これに代わるより効率的・効果的な方法を検討する必要がある。

## 標準型

- ・WTO対象工事では、技術評価点の最高得点者が、調査基準価格に近い価格で落札している。
- ・WTO対象工事では、技術評価点での差がつきにくくなっていることから、技術提案・評価のあり方について検証が必要である。
- ・WTO対象工事では、入札参加者数が急増している。
- ・段階選抜方式の導入等、手続きの簡素化や技術提案・評価のあり方を見直す必要がある。

## 高度技術提案型

- ・民間の高い技術力を有効に活用するという観点から、予定価格の設定方法を含め、技術提案・評価のあり方について検証が必要である。
- ・適用件数が少なく、高度技術提案型の活用に向けた検討が必要である。

・標準型適用の考え方を見直し、技術提案により企業の技術力を評価するタイプと企業の施工能力を簡易に評価するタイプに二極化することとし、その線引きについて検討

## 施工能力評価型 [仮称]

- ・施工能力を有する企業を確実に選別する観点から、「簡易な施工計画」に代わる、効果的、効率的な手段を検討 (例えばヒアリング等)
- ・受注者の固定化に配慮した評価方法等を検討

## 技術提案評価型 [仮称]

- ・一段階目での絞込みの方法等について検討するとともに、段階選抜方式の試行を拡大
- ・企業の技術力の差が技術評価点に適切に反映されるよう、求める技術提案の設定方法、評価方法について検討

## 高度技術提案評価型 [仮称]

- ・より技術力を評価する観点から、予定価格の設定方法、技術提案の評価方法、点数の付与の方法、落札者の決定方法について検討
- ・適用件数拡大に向けた手続き期間の短縮、手続きの簡素化等について検討